



末光弘和＋末光陽子 / SUEP.展

Harvest in Architecture 自然を受け入れるかたち

Hirokazu Suemitsu + Yoko Suemitsu / SUEP. Harvest in Architecture

TOTOギャラリー・間(東京都港区)は、自然と建築が共生する新しい時代の環境建築デザインを手がけている建築家ユニット 末光弘和＋末光陽子 / SUEP.(スープ)の展覧会「Harvest in Architecture 自然を受け入れるかたち」を2022年6月8日(水)～9月11日(日)の会期で開催します。

また、関連イベントとして末光弘和＋末光陽子 / SUEP.講演会「Harvest in Architecture 自然を受け入れるかたち」を7月15日(金)(予定)に開催します。



展覧会

会期——2022年6月8日(水)～9月11日(日)

会場——TOTOギャラリー・間

東京都港区南青山1-24-3
TOTO乃木坂ビル3F

休館日——月曜・祝日

夏期休暇[8月8日(月)～8月15日(月)]

※TOTOギャラリー・間ウェブサイトにて
最新情報をご確認ください。

開館時間——11:00～18:00 入場無料

講演会

日時——2022年7月15日(金)(予定)

※詳細が決まり次第、TOTOギャラリー・間
ウェブサイトにてご案内いたします。
<https://jp.toto.com/gallerma>

展覧会概要

TOTOギャラリー・間では、末光弘和＋末光陽子 / SUEP.(スープ)の展覧会「Harvest in Architecture 自然を受け入れるかたち」を開催します。

SUEP.の特徴は、建築を地球環境における生命活動を促す媒体として位置づけようとする思想にあります。

彼らは地勢、水脈、植生、生態系などに着目し、自然環境にある風・熱・水などの働きをシミュレーションして設計の起点とすることで、建築を媒介した資源の循環システムを構築しています。自然に対して建築が寛容なアプローチをすることで、自然の恵みを得るとともに、それが持続できる社会を目指しています。また建物の居住性を上げるという機能面はもちろん、住まう人、使う人たち、地域の人たちが、その循環の一員として参加する喜びを分かち合えることも大切にしています。

本展のタイトル「Harvest in Architecture」には、私たちが日々地球の恵みを受け取れることへの感謝と、それを継続するために行う努力への決意が込められています。展覧会では、彼らが行ってきたリサーチや検証と、それらがどのようなかたちで建築の循環システムに結実してきたかが明かされます。

彼らの取り組みは、建築が地球とつながり、未来を拓くためのチャンレンジの連続といえます。人間が地球の恵みを一方的に搾取するのではなく、自然との共生により豊かな恵みが続いていく、そのために建築家として果たすべき役割は何か。本展覧会を通して、彼らの思考と試行の全貌をご覧ください。

TOTOギャラリー・間

展覧会詳細

展覧会名(日)——末光弘和＋末光陽子 / SUEP.展 Harvest in Architecture 自然を受け入れるかたち

展覧会名(英)——Hirokazu Suemitsu + Yoko Suemitsu / SUEP. Harvest in Architecture

会期——2022年6月8日(水)～9月11日(日)

開館時間——11:00～18:00

休館日——月曜・祝日・夏期休暇[8月8日(月)～8月15日(月)]

※TOTOギャラリー・間ウェブサイト(<https://jp.toto.com/gallerma>)にて最新情報をご確認ください。

入場料——無料

会場——TOTOギャラリー・間

(〒107-0062 東京都港区南青山1-24-3 TOTO乃木坂ビル3F)

東京メトロ千代田線乃木坂駅3番出口徒歩1分

TEL:03-3402-1010 <https://jp.toto.com/gallerma>

主催——TOTOギャラリー・間

企画——TOTOギャラリー・間運営委員会

(特別顧問＝安藤忠雄、委員＝千葉 学／塚本由晴／セン・クアン／田根 剛)

後援——(一社)東京建築士会／(一社)東京都建築士事務所協会

(公社)日本建築家協会関東甲信越支部／(一社)日本建築学会関東支部

協力——九州大学大学院末光弘和研究室

展覧会コンセプト

Harvest in Architecture 自然を受け入れるかたち

地球温暖化が進み、大規模な自然災害が世界各地で頻発している現在、我々建築家は、大きな 이슈を突きつけられている。それは、モダニズム建築運動以来の全世界で共通する大きな課題である。この先、私達は、この母なる地球とどのように暮らしていくのか。その自然観が問われている。

“Harvest in Architecture”とは、自然の恵みを持続的に受け入れ、地球とともに生きるための建築の姿を取り戻そうとする概念である。“Harvest”とは、カラフル(多様)であり、ハピネス(喜び)であり、エネルギー(活力)である。それは、農耕のように、自然との関係を耕し、持続的な恵みを得ることで、そこに人が集まり、交流する場が生まれるイメージである。それらを実現するためには、自然と人とのバランスの中で関係を築かなければならない。

本展覧会は、自然の恵みを維持し続けるために、循環する環境の一部として、あるべきこれからの建築の姿を問うものである。

末光弘和+末光陽子 / SUEP.

建築家プロフィール

末光弘和+末光陽子 / SUEP.

東京と福岡を拠点に国内外で活動する建築家ユニットSUEP.(スーブ)。地球環境をテーマに掲げ、風や熱などのシミュレーション技術を用いて、資源やエネルギー循環に至る自然と建築が共生する新しい時代の環境建築デザインを手がけている。

主な受賞に第27回吉岡賞(2011年)、第29回芦原義信賞(2019年)、2018年度グッドデザイン賞金賞など。主な作品に「淡路島の住宅」(2018年、兵庫県)、「九州芸文館アネックス1」(2013年、福岡県)^{※1}、「ミドリノオカテラス」(2020年、東京都)など。現在「百佑オフィス」(台湾)^{※2}、「SOLSO FARM OFFICE」(神奈川県)^{※3}などが進行中。

※1: 日本設計と共同設計 ※2: RHTAAと共同設計 ※3: SOLSOと共同設計



©Masatomo MORIYAMA

末光 弘和(建築家) すえみつ ひろかず

1976年愛媛県生まれ。1999年東京大学卒業。2001年同大学大学院修了。2001-06年伊東豊雄建築設計事務所。2007年よりSUEP.主宰。2009-11年横浜国立大学Y-GSA設計助手。2020年より九州大学大学院准教授。

末光 陽子(建築家) すえみつ ようこ

1974年福岡県生まれ。1997年広島大学卒業。1997-2003年佐藤総合計画。2003年にSUEP.を設立。2018-22年昭和女子大学非常勤講師。

関連書籍

『(仮)末光弘和+末光陽子 / SUEP.作品集』

発行年月: 2022年6月(予定)

発行: TOTO出版(TOTO株式会社) TEL: 03-3497-1010 <https://jp.toto.com/publishing>

広報用図版(作品) 1/1



[1] 淡路島の住宅
兵庫県 | 2018年

©Shinkenchiku-sha



[2] ミドリノオカテラス
東京都 | 2020年

©Kai Nakamura



[3] 清里のガラスハウス
山梨県 | 2018年

©Kai Nakamura



[4] 百佑(バイヨ)オフィス 模型
台湾 高雄市 | 進行中
※RHTAAと共同設計

©SUEP.

TOTOの建築文化活動

TOTOは、建築の専門ギャラリー「TOTOギャラリー・間(ま)」と建築系書籍の出版をおこなう「TOTO出版」を運営しています。

これらは、建築文化の醸成・育成を通して社会に貢献することを目的として創設され、30余年にわたり活動しています。

「TOTOギャラリー・間」と「TOTO出版」の活動目的は、建築家をもつ多様な価値観を空間で表現する「展覧会」、自身の言葉で伝える「講演会」、そしてかれらの理論と思想を伝える「出版」によって、建築家のメッセージとして発信することです。



TOTO出版

新共通価値創造戦略 TOTO WILL2030

きれいと快適



環境



人とのつながり



「環境・社会的価値」と「経済価値」を同時に実現する新共通価値創造戦略 TOTO WILL2030では、「きれいと快適」「環境」「人とのつながり」を取り組むべき重要課題「マテリアリティ」として経営とCSRの一体化に取り組み、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」にも貢献していきます。

<https://jp.toto.com/company/ir/individual/vision/index.htm>